

2026 年度 助産別科Ⅰ期 小児看護学 模範解答

問題番号	模範解答
問題1	2
問題2	2
問題3	3
問題4	1
問題5	3
問題6	2
問題7	2
問題8	3
問題9	4
問題10	2
問題11	1
問題12	4
問題13	4
問題14	1
問題15	1
問題16	1
問題17	2
問題18	3
問題19	1
問題20	2
問題21	3
問題22	2
問題23	3
問題24	4
問題25	1

問題番号	模範解答
問題26	1
問題27	4
問題28	3
問題29	2
問題30	3
問題31	2
問題32	4
問題33	3
問題34	3
問題35	3
問題36	4
問題37	3
問題38	4
問題39	1
問題40	4
問題41	3
問題42	4
問題43	3
問題44	3
問題45	2,3

記述式解答
問題46

(解答例)

①川崎病の病態（特徴）
全身の血管炎省症候群である。主に中型筋性動脈が障害され、冠動脈に強い炎症性血管炎が生じる特徴がある

②主症状
発熱、手足の発赤・腫脹、両側眼球結膜の充血、口唇紅潮、頸部リンパ節腫脹、不定形性発疹

③川崎病の標準治療

- ・免疫グロブリンの点滴時は、アナフィラキシーショック（投与後1時間以内）の早期発見につとめる（心電図モニターの装着、バイタルサインのモニター等）
- ・アスピリン内服は、急性期は抗炎症作用、回復期は抗血小板作用を目的で投与する。副作用は出血が生じる可能性である。消化管出血や打撲による出血（幼児期前期は運動機能の発達が未熟なため、転倒などが起きやすい）排泄物の性状（血便や血尿など）、皮膚状態（打撲や出血）等の観察を行う。
- ・退院後も低用量を2か月程度内服する必要があるため、打撲や転倒などの事故を防止する対策を退院後の生活をふまえ考える。➡親への指導は、アスピリンの服薬継続と出血防止、川崎病のフォローのための定期健診